



スポーツボランティアの交流情報紙

SVニュース

発行 SV2004 (宮城県仙台市)
発行日 2010年2月15日 (月1回発行)
私たちはスポーツボランティア活動を応援します

今月の特集

東北スポーツボランティア・サミット

1. 基調講演 1P ~ 2P
2. 第2分科会報告 2P ~ 6P
3. SV2004紹介・編集後記 7P ~ 8P

東北スポーツボランティア・サミット報告

会場

基調講演 仙台市東北大学さくらホール **分科会** 宮城スタジアム 競技運営室

懇親会 宮城スタジアム 6階展望室 **ボランティア体験** セキスイスーパーアリーナ

留意事項

1月30日(土)は、bjリーグホームタウンミーティングと共催

1月31日(日)は、bjリーグオールスターゲームにて活動

基調講演 「bjリーグの過去・現在・未来」 bjリーグコミッショナー 河内 敏光 氏

13:10 ~ 14:00

bjリーグコミッショナーの河内です。球団を運営するのはプロのスタッフですが、私はそこにボランティアがいないと運営出来ないと確信しています。まずは皆様に御礼申し上げたいと思います。その上で皆様には自分たちが支えているという意識をもって、地域やチームを支えていただきたいのです。更にボランティア同士の交流も大切にしていきたいと思っています。



さて、まずはbjリーグというものについて知る為に映像をみていただきたいと思います。

【 bjリーグ 09-10シーズン観戦ガイド DVDにて10分ほど鑑賞 】

ここからは配布している資料から説明します。bjリーグは2005年に日本のバスケット界の改革をめざしてスタートしました。それまでバスケットボールをする子供達は多いものの、トップに近づくにつれて同じアジアでも力の差が開く傾向にありました。そうした状況をふまえ、サッカーのJリーグを参考に「普及・強化」を目標とし、魅力あるプロリーグとして立ち上げました。アジアでも多くの国で93年から95年にかけてプロリーグがスタートし、一方国内では有力なJBLのチームが親会社の経営不振に伴い撤退する状況があったのです。

日本のスポーツマーケットは人口とGDPから見て1兆6千億円とみることができ、現在のマーケットは3千億円程度ですので十分潜在的な市場が残っていることもリーグ立ち上げの要因となりました。更に世界のバスケットボール人口は4億5千万人といわれ今急激に増えているのです。それはバスケットが中国でNO.1の人気スポーツだからです。また、オリンピックで最も人気のあるチケットもバスケットボールであり、最高峰アメリカのNBAの選手たちで構成するドリームチームの参加が影響しています。それほどバスケットはメジャーなスポーツで、国内では440万人の愛好者がいるとされていますが、協会への登録はそのうち67万人に過ぎません。私達はもっともっと底辺の拡大に取組む必要があります。

さらにバスケットボールの特色をいえば、男女のバランスが良いことがあげられます。日本中学校体育連盟の調査では男性52%、女性48%という結果でした。次にバスケットボールはサッカーや野球がほぼ終わる冬のスポーツといえます。地域にバスケットボールチームがあれば年間を通じて応援できる体制が出来上がります。しかし、まだまだ新聞の一面を飾るだけの力はありません。近い将来アリーナスポーツが一面に掲載されるようにしていきたいと思っています。



bj リーグは2005年11月5日に開幕しました。そこまでには様々な人々の協力がありました。他のスポーツのトライアウトと違いbj リーグでは参加者から申し込み金をもらって開催しています。それでも長く挑戦し続けてくれる人がいることで、リーグの立ち上げが正しかったと確信しました。

リーグではbj リーグ宣言として「プロフェッショナル」「スポーツ・エンタテインメント」「グローバル&コミュニティ」という3項目を掲げ、さらにより具体的な7つのビジョンと20の実践を決めています。それは会議などで迷ったときに立ち返るところです。発足時6チームだったリーグのチーム数は現在13チームに増え、2010年シーズンからは16チームとなることと決定しています。この結果、観客数もテレビの中継も増えていて、特にテレビは地方から中央への流れによって、BSフジにバスケット番組が出来ました。

一般にバスケットボール選手は背も高くかっこ良い為20代から30代の女性に人気が高いようです。また、観客の半数はバスケットの経験がないというデータもあります。今後の目標としては、子供達のゲームを会場で行う機会をぜひ増やしたいと思います。

リーグ全体では2014-2015シーズンに24チームとし、今季は100万人の観客見込みを200万人にしたいと思っています。また、アジアを中心に国際交流を増やしたいと考え、2006年からは韓国とチャンピオンシップゲームズを開催しています。社会貢献活動としてエコ活動に取り組むほか、チームがテクニカルフェールを1回する度に5,000円をもらい、地域のバスケットボール協会などにグリーンボールを寄付しています。

これからも他のアリーナスポーツと一緒に未来の子供達に選択肢を与えていきたいと思っています。

基調講演骨子 文責 KI

第2分科会 第1班 「プロスポーツとボランティア」 宮城スタジアム競技運営室

15:30~17:00

参加者24人(男性17人、女性7人)が5グループに分かれて討議しました。

第一G:6人、第二G:4人、第三G5人、第四G4人、第五G5人

仙台の活動紹介 グランディ・21ボランティア 村松 淳司



討議する為に仙台のボランティア活動を参考に紹介します、仙台のキーワードはエコ活動であり、又分別活動がうまくいっています。このためにはチーム運営との連携が不可欠ですが何処の場所でもごみ分別は全く同じです。つまり、短期的にはデータ蓄積であり、中期的にはリサイクル、長期的には環境配慮であると考えています。

スポーツ観戦に行くと環境により仕組みは、運営経費がおさえられますし、これはボラしか出来ない、だからこそボラ研修を実施しているのです。

このエコ活動ですが当初は酷い状況でした。特にプロ野球は席の下はごみで一杯だったものです。

5年かかり今はなくなってきて、休憩時にエコステーションで分別してくれるようになってきました。サッカー場の例ですが、ごみの減量作戦からはじまって、先ず、ごみのサンプルを調査し現状は60%くらいがリサイクルされています。プロ野球では楽天イーグルスで初めてエコステーションを設けました。現在はマイカップ

など観客の意識も変化してきていて清掃費も当初比 25% になってきています。また、プロバスケットの場合も同じ展開を実施しています。

ボラ活動ではお客様の案内なども、取り入れて改革してきています。仙台のボランティア活動が比較的うまくいっているのは、何処でも同じスタイルで活動している事が良い結果となっていると考えています。



第一 G より

- ・福島はプロが未だ無いこれから加入する方向であるが、現在は何でもやっている状況です
- ・スタッフ的な立場で会社組織にボラはお任せです。 <各担当県の事例説明>
- ・結局、課題はボラの新人がいないの？外部から入れないかも？

第二 G より

- ・プロバスケットに興味がありました。仙台でのモチベーション維持の方法は？
- ・チームが勝つ、喜び、悲しみは大きい、ボラ経験者のみ味わえるのは、ボラの楽しい所。
- ・ボラに初めて参加して、きつい作業であると、その後参加しなくなる現象があり、これからの課題です。又お客様からありがとうなどと声かけされると、非常に嬉しいものですが、逆パターンもあるがそのときは侘しいものです。
- ・まずはボラファンを増やす事が大事であると考えています。



第三 G より

- ・ボランティアの長所として、幅ひろい交流が可能であることや、年配者と接して社会経験も豊富になることがあげられます。
- ・ボラの短所として、自発性・無償性ということもあり長くモチベーションを保つのが難しく、何かモチベーション維持の目的を見つけてないとそれきりということがあります。
- ・まとめ役がいないと活動が難しいと思います。参加する人に明確なテーマが無いと続かない。
- ・事例としてボラをバスで送迎した事もありました。今後の課題は新人にどの様に伝えていけるかだと思います。

第四 G より

- ・長所は、組織として幅の広い年齢の方々と活動すると人脈ができ社会人として助かります。
- ・短所は、休日活動が多く家庭サービス等が難しいことで活動人数も伸びないことです。
- ・モチベーションをあげるに選手との交流などもあると思います。
- ・今後は家庭サービスも出来る環境作りなどの対応が必要だと思います。

第五 G より

- ・広島では外郭団体の下にボランティア組織が構成されています。組織が外にあるという意味ではやや仙台のボラのやりかたに、似通っています。
- ・新潟ではボラの意見がなかなか上がらず、又人数も 20 人前後での活動になっています。
- ・新潟では 6 つの団体を担当しています。秋田はいかにスムーズに運営が出来るかが注目されます。

閉めの挨拶

ボランティアのサポートを確保するのが大事です、ボランティアがボランティアをサポートすること、新人にはベテランが指導することでボランティアの定着化がはかれると思います。

第2分科会 第2班 「スポーツボランティアの連携」 宮城スタジアム競技運営室

15:30 ~ 17:00

参加者 29 名が 5 つのグループに別れ、簡単な自己紹介のあとリーダーのコーディネートのもと情報と意見の交換を行いました。 < 以下、各班報告を列記 >

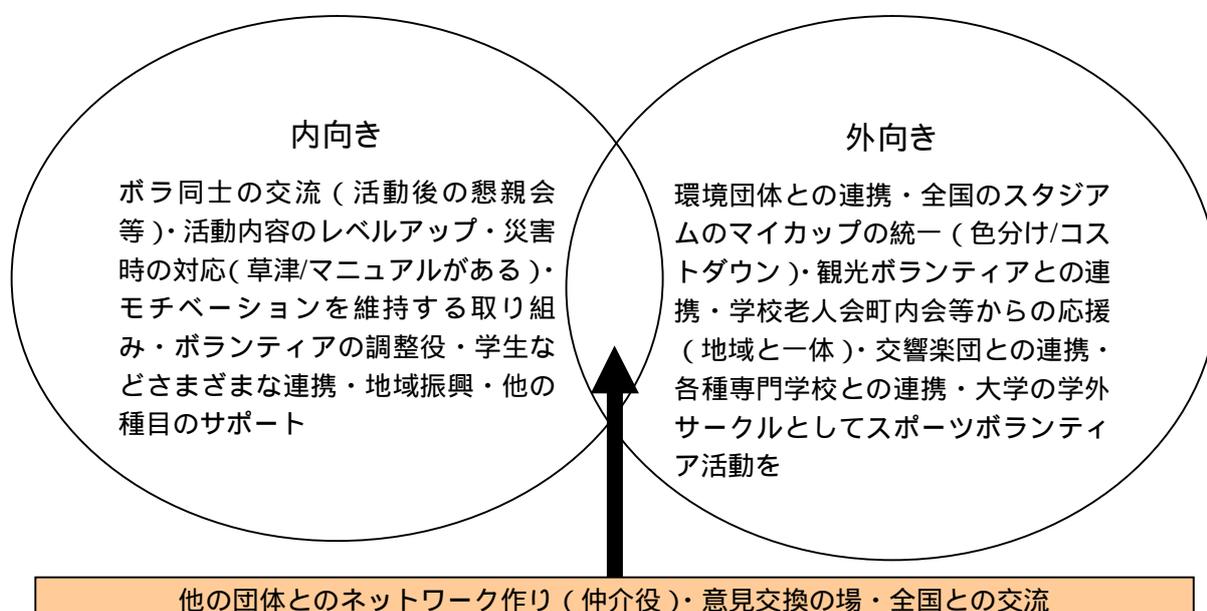
【各グループ参加地域一覧】

牛たん	萩の月	ずんだ	笹かま	冷やし中華
静岡	静岡	大阪	栃木	山形
栃木	千葉	新潟	山形	宮城
山形	山形	山形	新潟	新潟
新潟	新潟	宮城	宮城	宮城
宮城	宮城	宮城	宮城	福島
宮城	宮城		東京	



共通テーマ「**スポーツボランティアの連携**」

<グループ牛たん>



<グループ萩の月>

他のチーム・競技のボランティアをしたい・してもらいたい

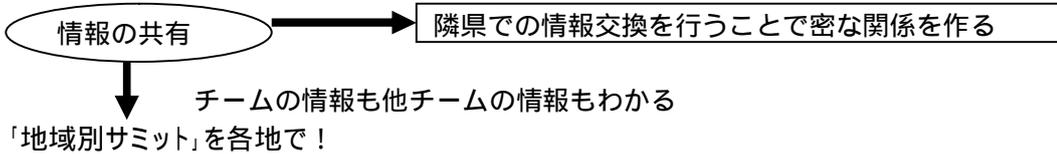
いろんなことが見えてくる、ただ、敷居が高くついてきてくれる人がいない

敷居は思ったほど高くない 顔をあげよう・情報を増やそう・まず行動力

地道にアピールしよう ML・掲示板・口コミ

楽しみを知っている人が増えれば、どんどん広がる

連携して出来ること



<グループずんだ>

災害時などに行政の枠を越えて助け合う (人的支援・義捐金など)

地域イベントに枠を越えて参加する (企画作りが大切)

競技にとらわれずブロック別の定期的な交流を行う

スポーツボランティア以外の楽しめる交流の場 (ボーリング大会など)

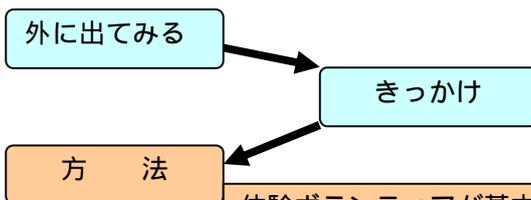
サッカーのオールスターのような全てのチームが参加できる大会の開催



<グループ笹かま>

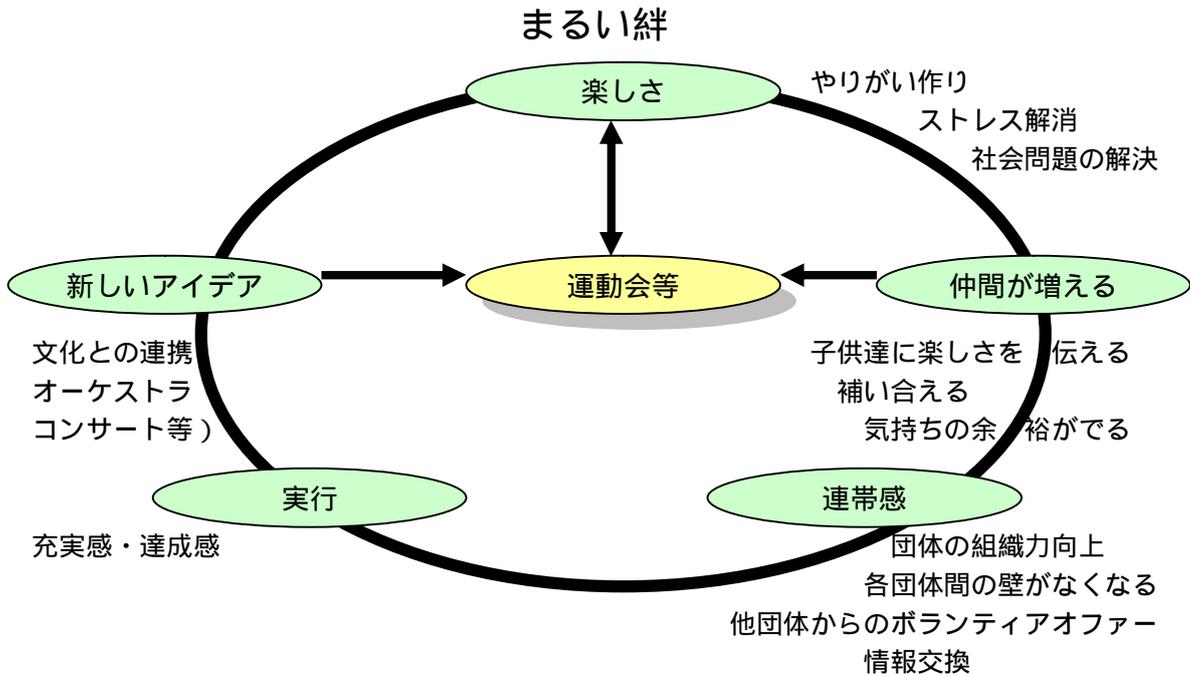
ボランティアの連携について興味を持ってもらうためには

- 他を知りたい
- 他クラブのやり方に興味がある
- 相談できる
- 仲間をもとめて



体験ボランティアが基本・サポーターの目でなくボランティアの目で見るとつながりを求める気持ち・エコ活動をキーワードに連携・情報誌・各組織のノウハウを集めたホームページ・ボランティアへのメッセージカード・他地域との人的交流

< グループ冷やし中華 >



ひとつの方向

多くのボランティアが自費で宮城に集まりました。その積極的な姿勢は「熱い思い」となって分科会の報告に表れました。種目を越えた情報の共有や交流・地域の環境や文化団体との連携・災害をはじめ地域課題への取り組みなど、個人や単独の組織だけではなく全国やさまざまな地域の組織と連携することで、多様な可能性が見えてきました。

一方で、様々な取り組みやとりわけ成功事例の共有・地域間をつなぐ交流の場の必要性も多くのグループから提起されていました。これは「やる気」があればあるほど、その気持ちをどう運営組織や仲間のボランティアと共有するか、というテーマの実現が現実には簡単ではないため、同じ思いを持つ人々が互いにサポートし合える仕組みとして求められていると考えられます。無償性・自発性の強いボランティア活動では、最後は活動を継続する強いモチベーションが大切になります。「スポーツボランティアの連携」にとって大切な要素のひとつはこの「モチベーション維持の仕組み」ということもできそうです。その仕組みがこのサミットから作れたら、心からそう思います。



SV2004について

【誕生の経緯】

SVとは、文字通り「スポーツボランティア」の略であり、1998年からスタートした「ブランメル仙台」(現在はJ2ベガルタ仙台)のボランティアや2001年の国体、2002年のワールドカップ宮城大会のボランティア経験者の有志が集まり、幅広いスポーツをボランティアとしてサポートする目的で2004年に発足しました。

役割 (ミッション)

スポーツをより楽しくコーディネートし、ネットワークを通じて、環境改善にも取り組むことでスポーツの振興と、スポーツに関わる人々の社会的認知を高めることに貢献します。

私たちはスポーツのボランティア活動は「楽しく」あるべきだと思います
そのため、ボランティアと運営組織、ボランティア同士のコミュニケーションを大切にします
思いをともにする人々とのネットワークを構築します
活動するボランティア環境の改善、そしてエコ活動にも取り組みます
サポートするイベントが継続しよりよいものになるようサポートします
スポーツボランティアの活動が多くの人に理解し知っていただけるよう活動します

活動 (アクション)

活動の記録・報告はSVホームページをご覧ください

スポーツ全般のコーディネート活動 … 楽天イーグルス・仙台89ERSボランティア組織立ち上げサポートなど
スポーツ及びボランティアのセミナー活動 … 接客・エコ・救命・災害・コミュニケーション・入門セミナーなど多数
スポーツに関する調査・企画・提案活動 … ボランティアアンケートの実施など
スポーツ情報発信活動 … SVニュース、ホームページからの情報発信など
スポーツネットワーク・交流活動 … 全国スポーツボランティアとの交流会の開催、東北スポーツボランティアサミットの開催
スポーツ環境改善活動 … チーム・マイナス6%との連動・エコステーションの普及取り組みなど

会員募集中！自主企画も含めたSV活動全般に参加するSV会員と
活動趣旨に賛同するサポート会員があります

【入会方法】

SV会員 … 年会費1,000円 (年度は4月～翌年3月となります)

サポート会員 … 年会費2,000円

お支払い方法…郵便振込み 郵便口座 18190-25930651 SV2004まで(振込み料はご負担願います)

または、SVが主催するイベント会場にて入会を受け付けます。(イベントはホームページでご案内します)

申し込み先 郵送の場合 〒980-0811 仙台市青葉区一番町4丁目1-3 仙台市市民活動サポートセンター SV2004

レターケースNO.50 (必ずレターケースNOをご記入ください)

メールの場合 izumita@dm.mbn.or.jp FAX 022-274-1469

申し込み書はホームページよりダウンロードできます <http://www.miyagi-sports.net/sv2004/>

SVの活動と仙台のスポーツイベント <1月1日～1月31日>

1月2日(土) SVだより1月1日号アップ

1月8日(金)・9日(土) 89ERS新人ボランティア研修会

～ オールスターゲームのボランティアとして登録してくれた新しいメンバーの研修会を仙台市体育館でのホームゲームにて行い、SVとしてサポートしました。

1月9日(土) 仙台スポーツリンク打合せ <オールスターゲームの配置とマニュアルについて>

1月13日(水) 12月20日のフリートークの報告を掲載したSVニュースの1月15日号をアップしました。ご覧になりたい方は下記のURLにてダウンロードできます。

http://npil.canpan.info/report_detail.html?report_id=6143

1月19日(火) 仙台スポーツリンク打合せ (ボランティア配置・マニュアル・研修について)

1月24日(日) グランディ・21ボランティア委員会 = 東北サミット・オールスター確認
オールスターゲーム用看板作成

1月24日(日) オールスターゲーム・ボランティア現場研修 (セキスイスーパーアリーナ)
リーダー研修会

ボランティア研修には約80名近くの方々が参加し、関心の高さがうかがわれました。全体説明のあと、ポジションごとにアリーナを回りながら研修を実施しました。

1月26日(火) SV会員資料郵送

1月30日(土) 東北スポーツボランティアサミット開催 (共催 bjリーグ・ホームタウンミーティング)

1月31日(日) bjリーグ・オールスターゲームサポート

THANKS < 今月号のSVニュースの発行に対しご協力いただいた皆様、ありがとうございました。 : 敬称略・順不同 >
東北スポーツボランティアサミット及びbjリーグ・オールスターゲーム・ボランティアに参加しご協力いただいた全ての皆様

スポーツボランティアの前向きな情報(募集・活動報告など)を募集いたします。経験をいかし、成功事例を学ぶ場としてSVニュース活用願います。(提供先は下記に記載)

編集後記

何事にも最初はあります。初めてだからと甘えるのではなく、初めてだからこそ慎重に準備し、それでも起きるさまざまなトラブルには仲間の協力のもと、出来る限りスピーディに対応することが求められます。それは、スポーツボランティアとしての日々の活動だけではなく、今回のような単発のイベントにも当てはまります。

さて、おかげさまで1月30日と31日の両日のピックイベントが終わりました。多くの人々の参加と協力で心から感謝したいと思います。今月号はその報告を特集しました。基調講演(bjリーグ・ホームタウンミーティングと共催)からスタートしたサミットは宮城スタジアムでの分科会、その後には懇親会と続きました。全国のボランティアがなんの壁も感じさせずまるで古からの友人のように、楽しげに語り合う様子はそれだけで十分に開催の目的を達したとを感じる瞬間でした。もちろん、隣接する合宿所では第2ラウンドの交流もありました。

翌31日はおだやかな天気恵まれ bjリーグのオールスターゲームの日を迎えました。サミットに参加したボランティアの多くも引き続きボランティアとして参加、それはいつも活動している種目とは違うものの、体験というレベルではなく経験者だからこそ適切な活動は感嘆させられるものでした。前日の疲れもみせず早朝から夕方まで過去最高となる6,000名以上の観客に接していただいた仲間に重ねて感謝したいと思います。この二日間が何を残せたのか、それはまだわかりませんが、一年後に何らかの成果をもってまた再会したいものです。本当にお疲れ様でした。

このSVニュースはSV2004の公式ホームページでもご覧になれます。<http://www.miyagi-sports.net/sv2004/>

スポーツボランティア活動に関する情報をお寄せください。

情報提供先 izumita@dm.mbn.or.jp